

保健体育科学習指導案

単元名「 バスケットボール 」〔学指要領：E、2学年、ア〕

人権教育 重要課題 （2）子どもたち

令和6年12月11日（水） 第6校時 場所：体育館

I 単元の構想

1 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技能	・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、球技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力等を理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。 ・ボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。	(削除)
思考力、判断力、表現力等	・攻防等の自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。	(削除)
学びに向かう力、人間性等	・積極的に取り組むとともに、フェアなプレイを守ろうとすること、作戦等についての話合いに参加しようとする事、一人一人の違いに応じたプレイ等を認めようとする事、仲間の学習を援助しようとする事等や、健康・安全に気を配ることができる。	(削除)

2 評価規準

知識	①技の特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力等を理解している。 ②チーム練習やゲームにおいて、技能の程度に応じた作戦や戦術を選ぶことが有効であると理解している。
技能	①パスやドリブル等でボールをキープすることができる。 ②得点しやすい空間にいる味方にパスを出すことができる。
思考・判断・表現	①提供された練習方法から、自己やチームの課題に応じた練習方法を選んでいる。 ②練習やゲームの場面で、最善を尽くす、フェアなプレイ等のよい取組を見付け、理由を添えて、他者に伝えている。
主体的に学習に取り組む態度	①練習の補助をしたり、仲間に助言したりして、仲間の学習を援助しようとしている。 ②マナーを守ったり相手のよさを認めたりして、フェアなプレイを大切にしようとしている。

3 指導及び評価計画（全10時間：本時第6時） ※観点別に、評価規準の数字を記載

時	学習活動	評価機会			
		知	技	思	態
1	・単元の課題及び学習の流れを理解し、球技の特性やチームの役割分担を設定する。 単元の課題 ボール操作と空間に走り込むなどの動きを高め、仲間と連携した動きでチーム課題に迫るゲームを展開しよう。	①			
2	・基本のパスやドリブル等、ボール操作の向上を目指した練習をする。		①		
3	・チームで協力し、仲間と学習を助け合いながら、チーム練習をする。				①
4	・チーム練習を行い、チームにとって有効な作戦や戦術を考える。	②			
5	・シュートにつなげるために、チームで練習を工夫し、考えを伝え合う。		②	②	
6	・チーム課題を分析し、チームに適した練習方法を選択して、ゲームにつなげる。			①	
7	・チームで高めてきた技能を発揮し、気持ちのよいゲームを協力して行う。				②
8	・仲間と連携し、空間を使う技能を高める。		②		
9	・男女別の新しいチームで、練習及びゲームに協力して取り組む。		①		
10	・まとめのゲームを実施し、単元を振り返り、学習状況を自己評価する。	総括的評価			

4 人権教育との関わり

情報化社会の進展や平和への不安、予測困難なこれからの時代を生きていく生徒たちには、多様な他者と協働しながら持続可能な社会の創り手となる「未来を生き抜く力」を育成することが求められている。

本学級の生徒たちを見ると、・・・

(中略)

本単元では、バスケットボールの学習において、男女混合チームで練習方法を選択したり、話し合ったりする中で、お互いを認め合いながら、運動が得意な生徒も苦手な生徒も楽しめるように、自分だけでなく、周りの友達を大切にしようとする態度を育てていきたい。また、対話や話し合いの中で、自分の意見を伝えることの大切さや他者の考えを受け入れることの価値をチームで共有することで、安心して自分らしさを発揮できるようにしたいと考えている。そして、一人一人のアイデアのよさや様々な考えに気付かせることで自分の考えとともに、他者の考えも大切にしようとする気持ちも高めたいと考える。

【育てたい能力・態度】

○感性：円滑な人間関係を構築する上で、自分と他者の考えには違いがあることを実感し、他者の考えを共感的に受け止める。

Ⅱ 本時の学習（6／10）

- 1 **ねらい** チームの課題解決に向けて話し合う中で、自他の考えを共有し、一人一人のよさを認め合いながらプレイの仕方考えることができる。
- 2 **準備** 教師：ホワイトボード、チーム用バスケット板、バスケットボール、バレーボール、ビブス
生徒：筆記用具、ワークシート
- 3 **人権教育の視点**
感 性：チームの課題解決に向けて、自分と他者の考えには違いがあることを実感し、他者の考えを共感的に受け止めている。

4 展 開

学習活動 予想される生徒の意識〔S〕	時間	○指導上の留意点 ◆評価項目（観点）
1 前時の学習を振り返り、本時のめあてをつかむ。 ○ウォーミングアップ、体操、個人技能練習を行う。 ①尻尾取り（チーム対抗） ②チーム体操 ③個人技能スキルアップ（ドリブル、シュート、パス） S：尻尾取りで、マークを外す素早い動きが身に付いてきたな。 S：前はドリブル練習を行ったので、今回はドリブルからレイアップシュートへとつなげてみよう。 <めあて> ・チーム課題の分析を通して、練習を選択し、チーム課題に迫るプレイとなるようにしよう。	10	○健康状態の把握、けが防止の準備の重要性を確認する。 ○元気よく声を出し、敏捷性を高めるよう意欲的な動きを促す。 ○前時の学習とのつながりを意識して、授業に取り組めるように、言葉をかける。 ○自己課題に深く考えて取り組めるよう、動きのポイントを事前に調べ、考えさせておく。 ○前時までに行った内容を振り返り、選択していくことを確認する。
2 チーム課題を設定する。 ・チームミーティングを行い、チームの目指すプレイを共有する。（分析・目標設定） ・目標を記入し、掲示する。 S：マークされている味方にパスをしてしまうことが多かったの、マークを外す練習を選ぼう。 S：シュートするまでに時間が掛かるので、速攻の練習	20 (5)	○時間を意識した活動になるよう、タイマーで時間を見えるようにしておく。 ○チームが目指すプレイを設定することで、チーム共通の技能向上を促す。 ○すぐに練習を始めようとするチームには目的と手段を一致させて技能を深められるように助言する。

が必要じゃないかな。素早いパスを課題にしよう。 S：フリーな人にタイミングよくパスが通せないので、パスするタイミングを合わせる練習をしよう。 S：シュートをひたすら練習しよう。		
3 チーム練習方法を選択し、練習する。 (本時のゲームでやりたいプレイ) チーム練習内容例 ①素早くボールをつないで、シュートまで展開しよう。 (速攻) ②フリーな状態の味方にパスを通し、シュートチャンスをつくる。(シュート) ③マークをタイミングよく外して、パスをもらおう。 (ボール回し) S：ボールを相手コートまで運ぶのが速くなった。 S：シュートを打てるチャンスが作れているから、失敗してもいいからシュートを打とう。 S：止まっているとマークされてしまうので、パスが出せない。もっと動いてマークを外そう。 S：自分がフリーな状態でボールをもらえる位置だったら声を出してボールをもらおう。	(15)	○チーム課題に迫る、適切な練習内容の選択ができているのか問いかけ、言葉がけや動き方のポイントについて確認する。 ○バスケットボールが苦手な生徒もどのようにすればプレイに参加しやすくなるのか、考えさせる。(言葉がけ例) ・速いパスが取れない人にはどんなパスだったら取れると思う。 ・どこに動くか分からない仲間にはどうやって動き方を伝えればいいかな。 ○スピードを高めることやキャッチの負担を少なくするために、練習ボールの選択にバレーボールも含める。 ◆評価項目(思①) チームの課題解決に向けて、自他の考えを共有し、根拠をもって適切なプレイを考えている。(発言・観察)
4 試しのゲームを行う。 S：練習した通りにパスをできている。 S：練習したチームプレイを使うためには指示の声も出した方がいいな。 S：なかなか練習通りにボールが運べないな。人が集まり、コートを大きく使えていないからかな。	10	○プレイヤーは4対4とし、勝敗ではなく、チーム課題に迫るゲームが目的となることを確認する。 ○プレイ人数を減らし、空間を広く使えるようにする。また、コート外から味方にアドバイスするように言葉がけをする。
5 本時のめあてに対するまとめを確認し、共有する。 <まとめ> ・相手コートまで早くボールを運ぶためには、ボールをもらう人を決めておくことが有効だった。 <振り返り> S：個人技能ではシュート練習を行い、ゲームでシュートチャンスがあれば打ってみようと思っていた。チームの課題に迫るために、練習したことがゲームで少し形になっていた。シュートを打つ役割だったので、そのためにフリーになる動きを意識して取り組んだ。次回はチームで素早くパスを回して、他の人にもシュートチャンスをたくさんつくれるようにしたい。	10	○チームで振り返り、練習したこととゲームの内容を比較して考え点数をつける。 ○自己課題とチーム課題について自分が行動したことを書き、振り返る。